

2019年度 神戸女学院大学 女性学インスティテュート

# 連続セミナー 「母なるものの役割」

第1回

6月7日(金) 14:00~15:30  
JD-104

キリスト教における母なるもの

文学部総合文化学科 専任講師 大澤 香

キリスト教の神には「父なる神」のイメージが強くあるように思われるかもしれませんが、しかし、人類の母エバ、族长時代の母たち、女預言者たち、イエスの母マリア、イエスの女性の弟子たちなど、聖書の中には印象深い女性たち・母たちの物語がたくさんあり、時には神が女性（母）のイメージで表現される場合もあります。多神教世界の女神との関連なども含めて、複数の側面から聖書とキリスト教における母なるものについて考えてみたいと思います。

第2回

6月14日(金) 14:00~15:30  
JD-104

天皇の母たち

文学部総合文化学科 准教授 栗山 圭子

地方における公務、2019年4月にせまった退位などに関して、明仁「天皇」と美智子「皇后」に関する報道を目にする機会も多いのではないのでしょうか。現在、天皇家の女性ということ、天皇と皇后=夫+妻のペアを思い浮かべることが多いのですが、歴史的には「天皇の母」が政治力をもち、大きな影響力を及ぼすことがありました。本セミナーでは、そうした「天皇の母」の政治的位置や役割についてお話ししたいと思います。

第3回

6月21日(金) 14:00~15:30  
音楽館 合奏室

オペラの中の母たち

音楽学部音楽学科 教授 松本 薫平

様々なオペラの登場人物の中から母親役に焦点を当て、映像を観ながら紐解いていきたいと思います。具体的には、モーツァルトの「魔笛」（1791年）、ヴェルディの「イル・トロヴァトーレ」（1853年）、フンパーディンクの「ヘンゼルとグレーテル」（1893年）、マスカーニの「カヴァレリア・ルスティカーナ」（1890年）といった作品を取り上げます。

第4回

6月28日(金) 14:00~15:30  
JD-104

現代家族の中の母

人間科学部心理・行動科学科 教授 國吉 知子

相互交際療法（PCIT）は、かんしゃくや暴力など幼児の問題行動の改善に非常に効果の高い心理療法です。PCITでは親子の交流（やりとり）を観察、精査し、悪循環（コミュニケーションパターン）を見出すことで治療につなげていきますが、そこでは親子間のパワーゲームも多くみられます。PCIT事例を通して、現代の親役割の揺らぎの共通点と、普遍的な“母性性”と“父性性”について考えたいと思います。

受講資格

一般成人・学生

受講料

無料

申込

事前申込不要

場所

第1.2.4回:ジュリア・ダットレ記念館104教室

第3回:音楽館合奏室

お問い合わせ先

神戸女学院大学 女性学インスティテュート  
〒662-8505 西宮市岡田山4-1

Tel:0798-51-8545 | e-mail:wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp